NEW DENTAL SALON

ネット配信広報誌 第１号 2017年 春

広報誌創刊に寄せて

会長挨拶

トピック

歯科医師会と私

業者からの耳より情報

これからよろしく（新人自己紹介）

連載紀行 気が付けば乗り物嫌いが旅の虜に

リレー投稿

連載 下都賀歯科医師会側面史

編集趣旨

下都賀歯科医師会の広報誌を再開したいとの要望があり、経費が嵩むという事で廃刊になった旧デンタルサロンの反省を踏まえ電子版広報誌を作ってみました。毎月発行では煩雑に過ぎますし、年一回の発行では広報の意味をなさないなど、協議の末季刊（年4回）で発行する運びになりました。内容は会員相互の親睦に寄与する内容に特化したものとしたいと考えております。末永くNEW DENTAL SALON続きますよう御支援お願いいたします。

広報担当理事　前橋　潮

会長挨拶

新年明けましておめでとうございます。会員の皆さまにおかれましては、健やかに新年を迎えておられることと存じます。

さて、この度、長らく休刊をしておりました、下都賀歯科医師会の広報誌であります「デンタルサロン」をメディアの形態を変えて再刊する運びとなりました。デンタルサロンについて、若い先生方のなかにはご存じない方もいらっしゃると思いますので、少し説明させていただきます。昭和２９年に発行された「小さな雑誌」（デンタルサロンの前身）に始まり、昭和３８年より「デンタルサロン」と名を改め１号が発行され、平成１１年に惜しまれつつ１００号でひとまず休刊となりました。１８年の時を経て、ここに再刊できましたことに大変嬉しく思うところでございます。これからは、会の情報提供はもちろんのこと、会員の趣味や近況報告など、会員相互の理解等にお役立てできる新たな情報手段のひとつになることと考えております。

最後に、デンタルサロンの再刊にご尽力いただきました広報委員会の会員の皆さまに感謝するとともに、今後の展開を期待したいと思います。

一般社団法人 下都賀歯科医師会

会長　　臼井正人

歯科医師会と私

森戸石孝

この度は下都賀歯科医師会広報誌創刊誠におめでとう御座います。

原稿の依頼を頂き朧になった記憶を辿り書いて参りたいと思います。

終戦を九州博多で迎えた私は、除隊後歯科医であった兄の薦めにより翌年歯科専門学校に入学し、卒業後宇都宮の国立栃木病院に二年ほど勤務、昭和二十七年二月栃木市祝町に開院した。当時はベテランの歯科医院が二十軒ほど有り新規開業は苦難の道であった。患者は一日二・三人の日々であり生活は苦しかった。患者は痛い時駆け込み痛みが取れると来院せず、補綴は限られた階層の人達で月に一人か二人程度であった。

当時は金冠サンプラ冠が主流で又患者も其れを望んでいた。先輩諸公の悠々自適の生活振りを羨ましく思う日々であった。

その頃社会保険は導入されていたものの普及は遅々としていた。国民保険も開院の翌年から施行されると、徐々に患者も増え収入も其れなりに上がるようになり、スタッフ雇用の必要に迫られた。

戦後、ベビーブームによる人口増加、食生活が豊かになると虫歯の患者が爆発的に増加した。国の指導のもと各学校が子供の虫歯治療を夏休み中に行うよう推奨したため、何処の診療所も子供で溢れた。中には一日百三十人以上も治療した

強者もいた。

昭和四十年頃に、自家用車が普及し始め駐車場の確保に迫られ、各医院の改築、新築が進んだ。政府は歯科医不足として歯科大学の増設を計った。それに伴い栃木県歯科衛生技術専門学校が設立され、私も非常勤講師として何年か通ったが、当初は指導に苦労したものである。

下都賀支部では会員の親睦を計るため様々なことをおこなった。野球、ゴルフ、ボーリングを始め、旅行も国内だけでなく香港、マカオ、台湾等の海外旅行にも足を伸ばした。中には賭博で大儲けし往復旅費もただになった会員もいた。先輩後輩の先生方との旅行時、夜遅くまで話し合った事など、走馬燈の如く思い出され終生忘れられない。又ゴルフでは草津温泉に一泊してのプレーや、川奈ホテル

ゴルフ倶楽部で二日間もプレーした事等本当に良き時代であった。

私は栃木歯学研究会の発起人として初回から関与し、会員諸先生と一緒に学ぶことが出来、大変良かったと思っている。

私のモットーは”良く学び良く遊べ”で趣味も多く嗜んだが、今は俳句の友人に誘われ『渋柿』に入会し、「孝」と言う俳号を頂き仲間に励まされながら挑戦して居る。

現在も週三日午前中義歯の診療を行って居り、この度卒寿を迎える事が出来た。是も先輩先生を始め諸先生方の暖かいご指導ご厚情に依るものと深く感謝している。

今後の歯科医師会、下都賀歯科医師会広報誌の大いなる発展と会員各位のご健勝ご多幸をご祈念申し上げ終りと致します。

昭和38年　　伊豆長岡（古奈温泉）支部親睦旅行

歯科医師会と私

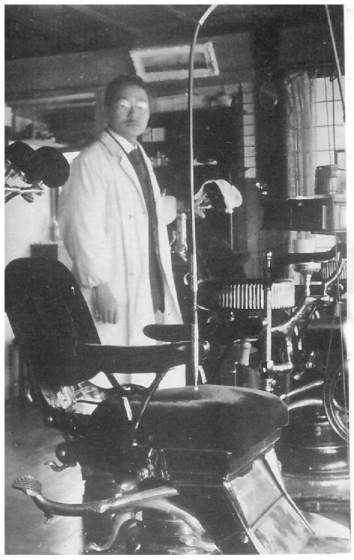
内田俊之

思い返せば中学校に入学した頃から仕事の嫌いな養父のせいか家業の手伝いをしていました。メロットという易溶性合金を溶かし陽型を作り既成の無縫冠、俗に云うサンプラ冠を作り歯頸部の調整、研磨と又、金を割り金（カラットメタル）と一緒に溶かし鋳型に流し込み金合金を作りそれをロールにかけて金伸しをしたり、ゴム床の義歯を作ったりと大変忙しかった様な記憶があります。又診療室に患者がいる時は今のタービンと違い足踏みエンジンを踏む手伝いをした事があります。その頃が今の歯科医療との転換期である様な気がします。高校に入学しても家業の手伝いはしていました。あの頃は学校帰りに時々ですが”金（ゴールド）”の配給なのかどうか茂垣先生（当時旭町にて開業）や金井先生（当時境町にて開業）の所に寄って”金”を受け取ってきた様な気がします。家業を手伝っていたせいか歯科大に入学しても補綴実習は楽しかった様な気がします。私は６年間電車通学なので授業に遅れず早く帰る習慣がついて友達から内田は風の如く去っていくと云われる様になりました。その実浅草六区の映画館に立寄り西部劇など”汚れた顔の天使””アランラッドのシェーン”等々自分が主人公になったつもりで鑑賞して今でも浅草六区は何故か懐かしいです。

本会に入会したのが昭和三十七年、入会挨拶は記憶が正しければ鯉保旅館だと思いますが、偉そうで年老いた先生方が並んで居た様に感じました。会にも慣れてきた頃休診の水曜日には小平先生、新井先生、石川（弘）先生などと一緒によく下手なゴルフをした覚えがあります。又渓流釣りが趣味のせいか原発騒ぎが起こるまで檜枝岐羽鳥の支流、三依の男鹿川特に近場の粕尾川にはよく出掛けました。もう何十年も釣りしてたせいか今で

も早寝早起が習慣になっており太陽のうごきと共に生活している様です。現在は二年前に胃癌発症四分の三胃切除その後肺癌、悪性リンパ腫、肺気腫があることが解り原因は加齢との事で今のところ経過観察中です。それでも人間動けるうちは動いた方が良いと云うのでこの頃は花巻温泉郷、肘折温泉に城崎温泉又一週間前には長野の中房温泉と行って来ました。別に温泉に入るのが目的ではないが行き帰りの行動が健康に良い様に思はれます。老人は先々に楽しみがあると元気になる気がします。診療も午前中のみ一～三名患者を診ています。毎日歩く事、少しばかりの仕事等の行動が健康を連れてくる様です。のんびりゆったり、あるがままに好きな様に生きています。

　今読んでいるPHP新書渡部昇一著、”実践快老生活”は面白いです、参考まで。最後に諸先生方の健康と本会の発展を祈りつつ…



昭和初期の診療室風景
須賀　暁先生

b) 槌打法

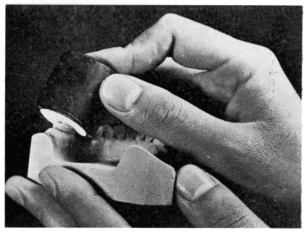


図 1-954　鉤歯のレスト窩を石膏印象する．

鉤歯に分離剤（ワセリン）を塗布し，やや固めの速硬性石膏をもったゴムリング（またはモルデンをもった鉄リング）で歯軸に対して45°の方向より印象をとる．

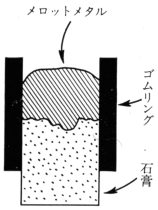


図 1-955

石膏印象面をゴムリング内でずらし，メロットメタル（溶融点110°C）を流し，陽型を作る．

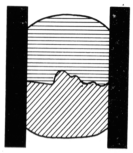


図 1-956　メロット陽型の表面がさめない内に分離剤（石松子，タルク等）を塗布する．次に陽型を十分冷却してから，メロットを流し陰型を作る．

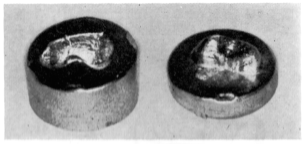


図 1-957　メロット陰陽型の完成

図 1-958　レスト外形線よりも 2~3 mm 大きめに切ったレスト板を陽型と陰型の間に介在させ，圧印する．

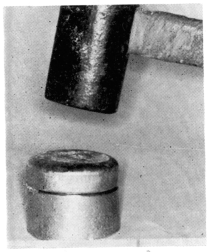


図 1-959　追打ずる．

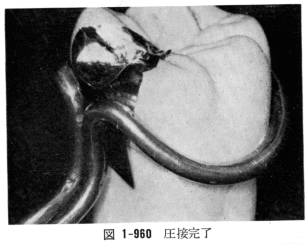


図 1-960　圧接完了

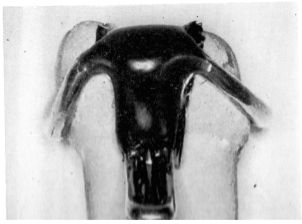


図 1-962　鉤歯より静かにクラスプを抜き出す．この場合レスト板が脱離することがあるので注意する．

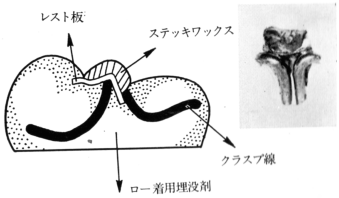


図 1-963　写真および図に示すように，ろう着用埋没材で埋没する．

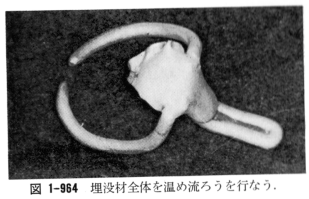
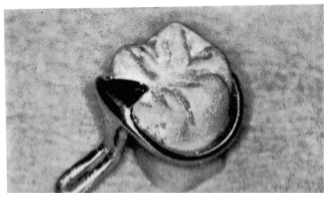


図 1-964　埋没材全体を温め流ろうを行なう．

レストおよび鉤体部をワックス形成した通り，金ろうで十分形態を回復してやる．



業者からの耳より情報

（株）ハギノヤ　　飯島浩史

小臼歯におけるCAD/CAM冠の保険適用によりCAD/CAMという言葉が歯科業界にも定着しつつあります。
昨今、院内にCAD/CAMの設備導入を考えていらっしゃる先生が増えてきているようにみうけられます。

しかし、実際CAD/CAMの設備導入が急速に進んでいるかというと・・・なかなか高額の機械になりますので導入された歯科医院様は多くないのが現状です。

そんな先生にちょっと耳よりな情報。

今回は**『ものづくり補助金』**に焦点を当ててお話しさせて頂きます。

ご存知の先生も多いかと思いますが、ものづくり補助金とは、

【国際競争力向上や新産業創出を促すため、中小企業の技術革新や新サービス開発を支援する補助金。正式名称は「ものづくり・商業・サービス革新補助金」。「中小ものづくり高度化法」（平成18年法律第33号）などに基づき、経済産業省と中小企業庁が2009年度（平成21）補正予算編成時に創出した補助制度である。試作品や新商品の開発、新サービスの導入、設備投資などを行う中小企業を対象に、かかった原材料費、機械装置費、人件費などの費用の3分の2までを補助する。補助上限は1000万円。ものづくり補助金は工作機械などの設備投資を促す効果が大きく、景気対策の一環として毎年、補正予算編成時に予算規模や補助内容が決められている・・・・】

・・・HP等の情報を見るとちょっと分かりずらい事が書いてはあるのですが**簡単に言うと**該当設備を購入するにあたり要件を満たせば設備の購入金額の3分の2を国が補助してくれるというものです。

当社のユーザー様も件数は多くはありませんがものづくり補助金の制度を使いCAD/CAMのシステムや口腔内スキャナー等のシステムを導入頂いたユーザー様がいらっしゃいます。

近年CTレントゲンやCAD/CAM冠の保険適用によりセレック等のCAD/CAMのシステムの需要が増えメーカーもこぞって新商品の発

表やセミナーの企画をたてております。

当社ではまだ実績はございませんがCTレントゲンの導入でものづくり補助金の申請が通った医院様が有るとの情報を得ております。
機器の導入を検討されている先生方がいらっしゃいましたら一度ものづくり補助金の申請も視野に入れた機器の購入を御検討いただければと思います。
申請に関するお問い合わせもごく簡単なお問合せであればお答えできますので弊社営業マンまでお気軽にお問合せ頂ければと存じます。

これからよろしく

関根　淳

下都賀歯科医師会広報誌創刊おめでとうございます。
今回歯科医師会入会順の若手とのことで自己紹介の寄稿依頼頂きました。

ユーモアを交えてとの事で、ご期待に添えるか分かりませんが、自己紹介したいと思います。
私は昭和5 7年11月3日生まれです。父も祖父も栃木市で歯科医師をしています。 栃木市では3番目に開業したそうです。第一小、西中、栃高、日本歯科大学、と卒業してきたので、 歯科医師会では大学だけでなく中学、高校の先輩も多く高校スキー部の部活まで一緒の先輩 もいます。私の世代は開設者の臨床研修必須となり、先日開設者変更した時には、臨床研修修了 証の提出を求められました。当時口腔外科に苦手意識があったため、長野県の佐久市立浅間総合 病院というところで、臨床研修を受けました。口腔外科への苦手意識を克

服するだけでなく、軽井沢から15分という立地でスキーやテニスも上達し、ゴルフも覚えました。

趣味が多ぐ仕事をしていない時は常に遊んでいます。ロードパイク、ドライブ、登山、スキー、 旅行、カヤック、アウトドア、料理、家庭菜園、オーディオ自作、飲酒、食べ歩き、ラジコン飛行 機、子育てなど、多すぎて自分でも覚えき

れませんが、季節や場所に応じて楽しんでいます。

学生時代に海外で働きたいと思い立ち、JICAでナイジェリア勤務する親戚を訪問しました。その 影響もあり、卒後も後進国で歯科医療を浸透させるべく銃弾飛び交うアフリカではなく世界 一平和と言われるバヌアツ共和国にて毎年歯科治療を行なっています。約10年バヌアツで夏休みの間治療しています。

バヌアツ共和国はイギリス、フランスの共同統治下にあったため、英語、フランス語、ビシュラマ 語が公用語で、さらに村ごとの言葉があります。手つかずの自然が残っており、今でもジャングル の中でヤシの葉を編んだ屋根と木でできた家に葉っぱで出来た服を着て慕らしている人々が沢山 います。2006年にはイギリスのシンクタンクの調査で世界一幸せな国にも選ばれました。し かし、医療サービスやインフラは充実しておらず、他国の支援頼みです。バヌアツに行くと、手つ かずの自然、ジャングルの滝、活火山、温泉、天国のような海が見られます。皆さんも一度行って 見てはどうでしょうか？

これからよろしく

成田　稔

成田稔の説明書

　私は名古屋で生まれ東京都は信濃町にて幼少時代を過ごし小学校途中で花の都栃木に住むこととなりました。

大学は東北の南部地方盛岡にて６年間を過ごすこととなりました。部活を親の勧めでゴルフ部に入り２年次に１人で全国歯科大会にいき注目を浴びる中100を叩きました。
卒業時になんとか団体で入賞を果たした時のチームワークには今でも熱くなる思いがあります。

その後千葉の鴨川市にある亀田総合病院にて３年間研鑽して来ました。宿舎の前が海であり休みの前や休みの日は先輩のためにBBQの火起こしをし飲んだ帰りにはウミガメが産卵していて生命の神秘に触れたりしながら過ごしました。そこの先輩のSJCDの名古屋支部の吉木御大将の指導のもと場所を名古屋に移しSJCDの会員として研鑽を続けスイスの近くのリヒテンシュタインに行ってivoclarvivadentの義歯のドクターのライセンスとテクニシャンの資格を取り海外で学ぶ楽しさを覚えた私は先生の勧め（命令）で南カルフォルニア大学の卒後研修を受け謎な客室研究員として過酷な勉強と呑みを経験させていただきました。
その後栃木に戻り数年勤務医をし開業となりました。

私の趣味はゴルフ、温泉、セミナー受講（手伝い）になるのですがこれといって今はない状態になっています。時間も取れないためも
う少し落ち着いたら改めてマイホビーを探したいと思っています。こんな私です

がこれからも歯科医師会の先生方の指導を受け地域に貢献できればと思います。これが私成田稔の説明書です。返品交換は受け付けませんのでお願い致します。

連載 紀行

気が付けば乗り物嫌いが旅の虜に

関根 潔

読売家庭版（新聞の付録）に投稿掲載された文と一部ダブりますが、私は６３歳になるまで飛行機には乗らず嫌いでした。飛行機に初めて乗ったのは今から6年前で、国内で最短距離の羽田～伊豆大島間の飛行時間約15分というもので、初めてのフライトはそれはそれは快適でした。子供の頃から乗り物に弱く、親達も旅行嫌い？だったようで家族旅行は自分が連れて行くまでありませんでした。大学時代の帰省列車ではへべレゲに酔ってしまい、途中下車し駅前の食堂の女将さんに介抱してもらった事を昨日の事の様に覚えています。それ以来ずっとひとりで乗物に乗る事がありませんでした。その為歯科医師会の研修旅行も参加できなかった訳です。初めての海外？（パスポートなしで行ける）旅行はふた家族車２台を使っての北海道旅行でした。今から25年も前の事です。船も飛行機も嫌で重い腰を上げたのは青森まではマイカーで、青函トンネルは家族と列車に乗り、この時、今も親しい家族ぐるみでお付き合いをしている佐藤さんのご主人が私の車に乗り、奥さんがマイカーで連絡船に乗り函館で合流し、その後は２台の車でトランシーバーで連絡し合い、北海道のあちこちを観て回りました。この後の旅行と言えば

マイカーで近くの温泉などドライブに毛が生えたようなものでした。

ある日家内がインターネットで捜し当てたのが伊豆大島へのフライトだったのです。当日航路が馬鹿混みしていて、機に乗ってから飛び立つまで１時間以上も待たされ、その間の緊張感は半端ではなかったのは言うまでもありません。また帰りの交通が問題で当然また同じ飛行機のつもりだったのが予定の機が天候の具合で八丈島からもどれなくなった為、急遽伊豆まで船に乗るはめになってしまい、意を決して乗ったのが高速ジェット船で海が穏やかだったのかほとんど揺れず、あまりの心地良さに眠りこけてしまったくらいです。伊豆から東京までは新幹線（これも乗れなかった）でしたが、このひとつの旅で飛行機、船、そして新幹線の３つまでがクリアしてしまったのです。あえて乗る事を勧めてくれた家内に感謝しています。二度目のフライトが15分からいきなり４時間半の歯科医院スタッフとの慰安旅行ホンコン、マカオでした。

…次号に続く

私の歯科履歴書 落合雅雄

歯医者になって

昭和３２年(１９５７)私は東歯大を卒業後、母校口腔外科入局、母校病院(水道橋)で診療に従事すると共に教室の主たる研究テーマ（口腔悪性腫瘍、口唇裂口蓋裂など）や、日常に遭遇する難症例の研究のサポートと手術技の修練に大童、昼食は毎日午後２時頃になった。夜間宿直のない日は、三軒茶屋の歯科診療所で一般診療の研鑽に励んでいた。

昭和35年（1960）4月に国民皆保険が実施され、社保に加入していない国民は、等しく国民健康保険の被保険者となった。それまで歯科受診者の多くは、経済的理由から歯冠修復や欠損補綴などの最終処置に至るまで通院できなかった。しかし皆保険になると、一部負担金で受診できることになって、国保発足と同時に患者が早朝から診療所に殺到したので、各医院は順番札を出して対応した。何処でも1日50名を超える来院患者数では、充分時間をかけた診療はできない。3時間待って3分治療の状況に対応する診療形態を

模索する医療管理学会が、経済学者と共同で提案された予約診療が推奨され、普及するようになった。と同時に保険診療報酬が保険医の銀行口座に恒常的に振り込まれることで、これが担保となり、今まで相手にされなかった歯科医も漸く銀行から認知され信用を得ることとなった。

栃木へ戻って

激増した患者さんを捌く猫の手として、私は大学を昭和35年（1960）6月で辞め栃木に帰り父の診療を手伝った。その3ヶ月後父は疲労と安堵からか病に伏し、12月に入院中の下都賀病院で急逝（享年

55歳）した。多趣味の人で麻雀、将棋、弓道、野球、釣り、登山、スキーなど下手の横好きながら夫々同好の士が歯科医師会の内外にいた。麻雀は、須賀暁（須賀潔先生の祖父）添野虎雄（添野哲男先生の父）佐藤繁（佐藤雅之先生の祖父）関根武治（関根潔先生の父）各先生と週一回位卓を囲んだようだ。船乗りだった父の従弟の戦前中国からのお土産の麻雀牌（骨牌）は、当時貴重品だったが、当番ホストの先生宅へ牌を届ける仕事は、子供の頃の私のお使いだった。将棋は茂垣光雄先生（当時旭町で開業）が好敵手のようだったが、弓は茂垣先生が栃木県でも高名の高段者だった。薗部町の浅間神社境内にあった矢場では2人で弓を引いていた。野球は医歯薬の合同チームがあり、栃商のエースだった田村彰先生（田村中先生の父）はじめ烏山中の球児だった佐藤繁先生、斉藤信先生（斉藤小児科、同眼科両先生の大叔父）上野高明先生（上野忠義先生の父）と父が参加、時々草野球を楽しんでいた。私は小学校の頃球拾いをさせられた記憶がある。後に田村中先生も球拾いに参加した。スキーは田村彰先生が能くした。毎冬上信越に田村先生と父は連れ立ってスキーを楽しんだようだ。私が中学3年生の時、越後湯沢へ連れて行かれて、田村先生から初めてスキーの手ほどきを受けた。まだリフトやゴンドラの無かった時代（昭和22年）で一枚板のスキーだった。

次号に続く